

ガイアポリス  
共鳴

vol.3 エリン




本データは、Studio F#が実施している  
参加型投稿企画「ガイアポリス共鳴」の  
お礼冊子の試し読み版です。  
完全版は企画にご参加いただいた方に  
さし上げております。  
郵送でお送りする冊子版の他、データ  
版もございます。

もしよろしければご参加下さい。

ガイアポリス共鳴

<http://kyomei.f-sp.net/>



ガイアポリス  
共鳴

vol.3 エリン

# エリン・グレイ 身上調査

## 名前

エリン・グレイ (エリン・カスタニエ) (Erin Gray / Erin Castagnier)

## 略歴

- 597.12 カスタニエ公爵領レーゼクネに生まれる
- 600.12 アヴァロン城で皇帝に初めての謁見。その場で皇女の剣として生きることを命じられる。皇女アーシュラと出会う。
- 612.11 ゲオルグに出会う
- 614.11 バシリオ・コルティス、クーロ・コルティス親子を殺害
- 615.5 高原にて兄と再会。幼いロティスに出会う
- 616.4 アーシュラ即位・結婚
- 617.2 アーシュラと死別
- 617.8 マーゴットを連れて城を出る
- 629.1 アヴァロン城へ戻る
- 633.6 ハミルトン公爵の誕生会にて火災に遭遇



【色無し】  
紫灰の日時計上巻で書かれているように、エリン・グレイというのはツヴァイが付けた通名で、それ以降先生は決して人前で本名を名乗りません。そもそも、名前自体基本的に名乗ったりしないのですが、どうしても名前を伝える必要がある時だけエリン・グレイと名乗っているようです。

性別

男

生年月日

597年12月20日



【偶然の】  
ゲオルグと同じ誕生日(年齢は1つ下です)な先生。きつと、さぞかし嫌だったこととお互いにお互いに。

星座

射手座

血液型

AB型



【古い師アンネローゼから一言】  
射手座のAB型のあなたは知的で行動力もある、強い人。けれど、なかなか人に本当の気持ちや話をすることが出来ない孤独な人でもあるわね。孤立を受け入れるのも良いけれど、誰かと共にある幸せも大切にね。

身長

186センチメートル

髪の色

ブロンド

瞳の色

右目は明るいブルー  
左目は高貴なる董色  
(High-born violet, royal violet)



不運の紫ですが、彼にとって紫を持って生まれたことは不幸だったのでしょうか。その答えはまだ出ていないのではないかと思います。

利腕

右・左



剣はほぼ例外なく両利きです。

その他身体的特徴

美形であり、主人を亡くしてからあまり外見的に年をとっていない。  
身近な人からは「時間が止まっているよ」と言われる。



本当に全く年を取っていないのではなく、精神的な時間が止まっているせいで表情や雰囲気が変わらないからというのが大きいのだと思います。  
美人なのはたぶん家系でしょうね。

出身地

カスタニエ公爵領レーゼクネ

現住所

帝都アヴァロン(アヴァロン城)



姫が評議員として直轄区に赴いてからは、ゲオルグと二人でお留守番生活の先生です。

免許・資格

特になし

所属・肩書き

特になし



影の剣は主人とのつながり以外の社会的な存在感はありませんが、必要な知識や作法などは子供の頃に城内で教わっています。  
育ちのわりには物知りな方ですが、知識に激しく偏りがあります。

## 性格的特徴

寡黙で内省的。自分のことを顧みないというか、顧みる方法を知らない。守るべきもののためには自分の犠牲も他人の犠牲も厭わない。器用なタイプではないので、何かと極端なところも。

あらゆる判断基準を自分の外に置かざるをえない立場として育ちましたが、幸い周囲の人々から非人間的に扱われたわけではないので、感情は人並みに持っています。剣として生きること強いられずに育ったとしたら、たぶん、セルジュよりも明るく爽やかな好青年に成長したことでしょう。

## 父親について

### カスタニエ公爵 フリートヘルム・カスタニエ

先々代の皇帝アドルフの長男で、皇太子になることなく分家させられた人物です。フリートヘルムは父親との関係が悪かった(アドルフから嫌われていた)模様。エリンが3歳で殺されそうになったのも、おそらく、彼の息子であったからという部分も大きかったと思われる。ただ、フリートヘルムがエリンにとって特に悪い父親というわけではありませんでした。

## 母親について

### マイリーブリット・カスタニエ

優しい母親でしたが、次男が紫を持って生まれてしまったことには心を痛めていた模様。引き離される時、大切にしていた指輪を皇女の乳母ヤナに託しました。

## 兄弟について

### セルジュ・カスタニエが兄

年の離れた兄セルジュのことは幼い頃から尊敬し、慕っておりましたので、その兄からの頼みごとは断れないようです。

一方、シュガードロップ影の剣ルートでは、本当は離宮から逃げた後実家に逃げ込んでよその自治区への脱出など、便宜を頼んでも良かったのだと思いますが(セルジュも断らなかったでしょう)、それはしませんでした。兄に迷惑はかけられなかったのだと思います。

## 主人について

### アーシュラールガ・ヴィラ・アヴァロン

与えられた運命の人。彼にとってアーシュラは世界であり、そのことに疑問や葛藤を持つような猶予も与えられない生い立ちでした。普通の感覚からすればそれはとても不自由で不運なことのようにも思えますが、きっとエリンにとつては、それ以外を知らないという意味で、不幸では無かったのだと思います。というか、彼女が居た間は彼女のことさえ想っていれば良かったのですから、楽だったのかもしれないね。

アーシュラはエリンに生きて欲しいと命じますが、それはエリンにとっては辛い願いだったことでしょう。

## 祖父母・親戚について

### 祖父は二代前の皇帝アドルフで、 主人アーシュラは従姉。 ロデイスは甥。

幼いロデイスとのエピソードが「紫灰の日時計・下」に登場しますが、この時のことをエリンは当然憶えています。ロデイスはほぼ忘れていきます。なぜなら、あの高原での日々の後さほど時間を置かずに、彼の母リュシエンヌが他界しているからです。

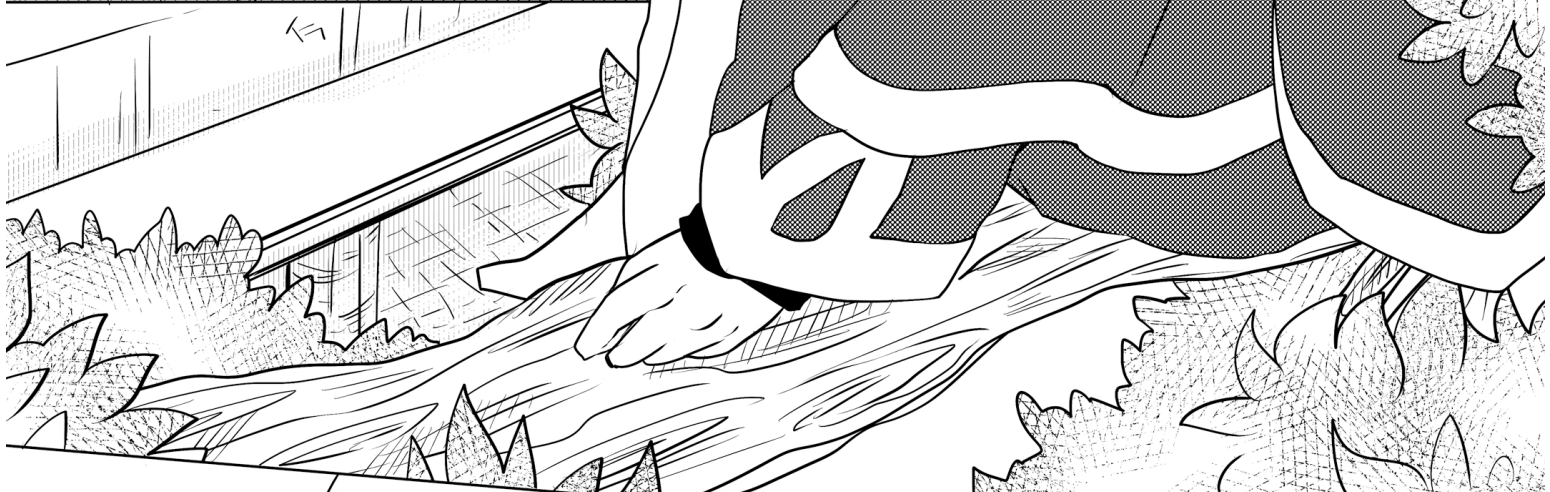
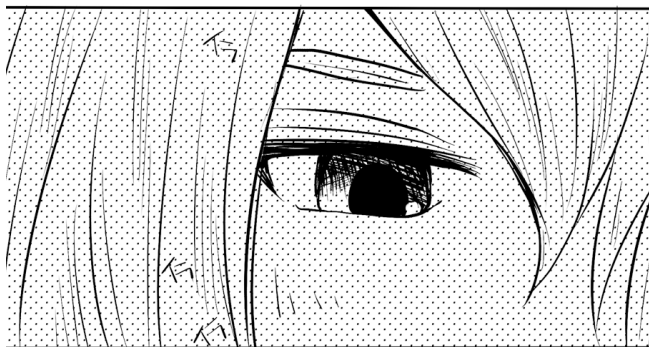
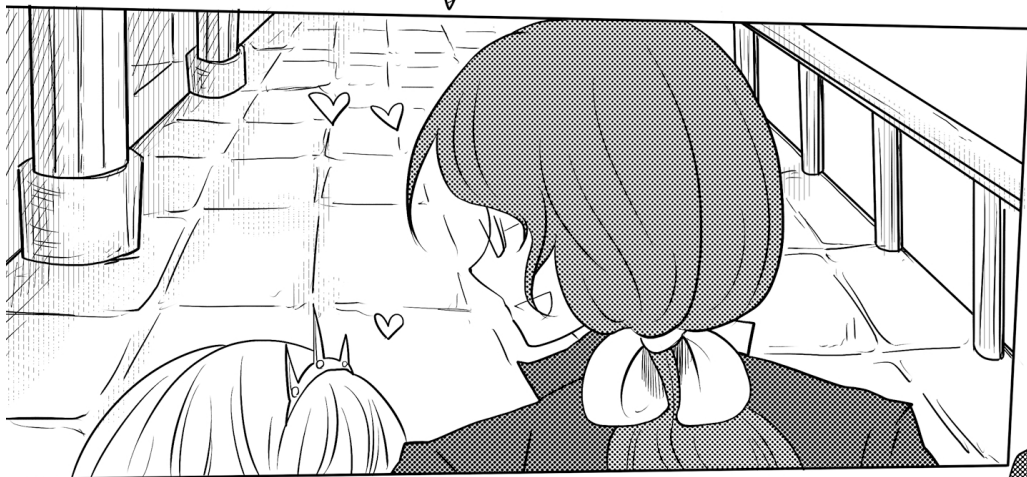
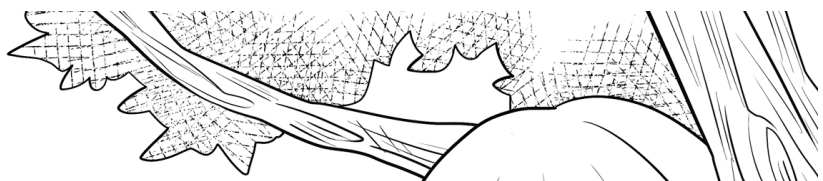
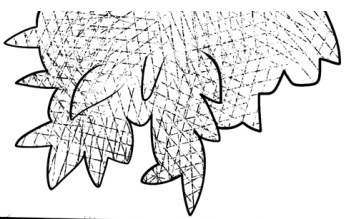
エリンはロデイスに対しては個人的な愛着を持っており、出来る限り守りたいと思っていますが、個人的な感情の優先度が低いいため、なかなか思うとおりに行動出来ていません。

「渡り鳥の門は遠く」の事件の時は珍しく自分の気持ちを優先して動いたようですね。

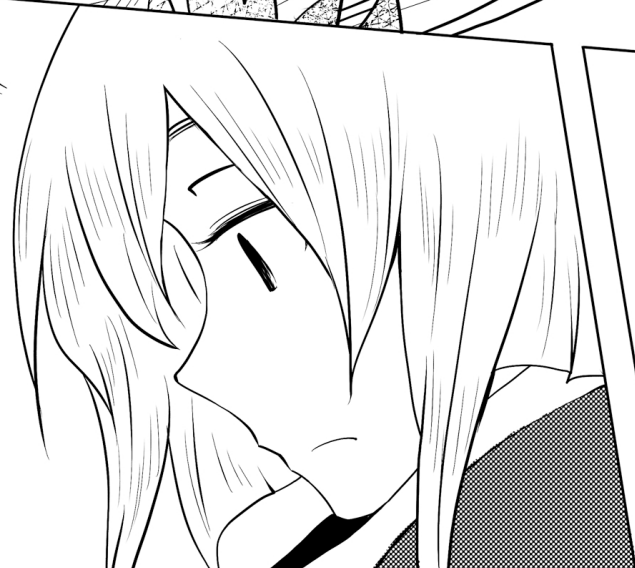
## その他身近な人物

### ツヴァイ

ツヴァイは自分のことをあまり話さない人でしたが、エリンには優しく接しました。元々温厚な人物であることもありましたが、フリートヘルムの息子であるエリンに対して何か思うところがあったようです。



エリン





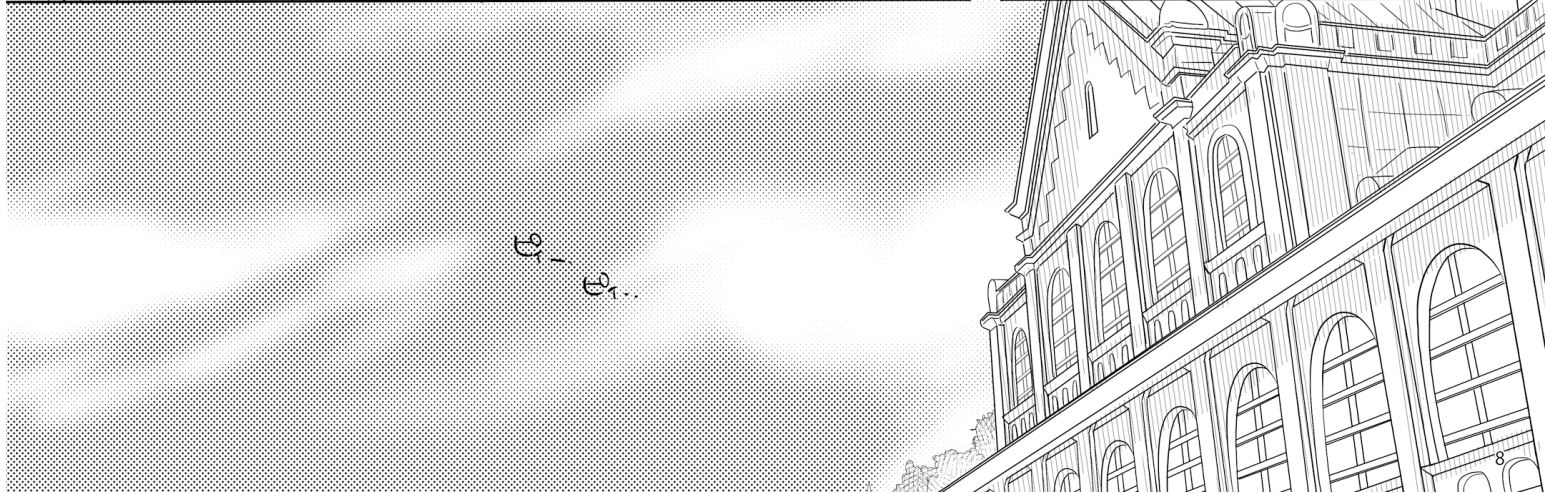
私がお二人の側におりますから  
あなたは外して良いですよ

先生……

えっ

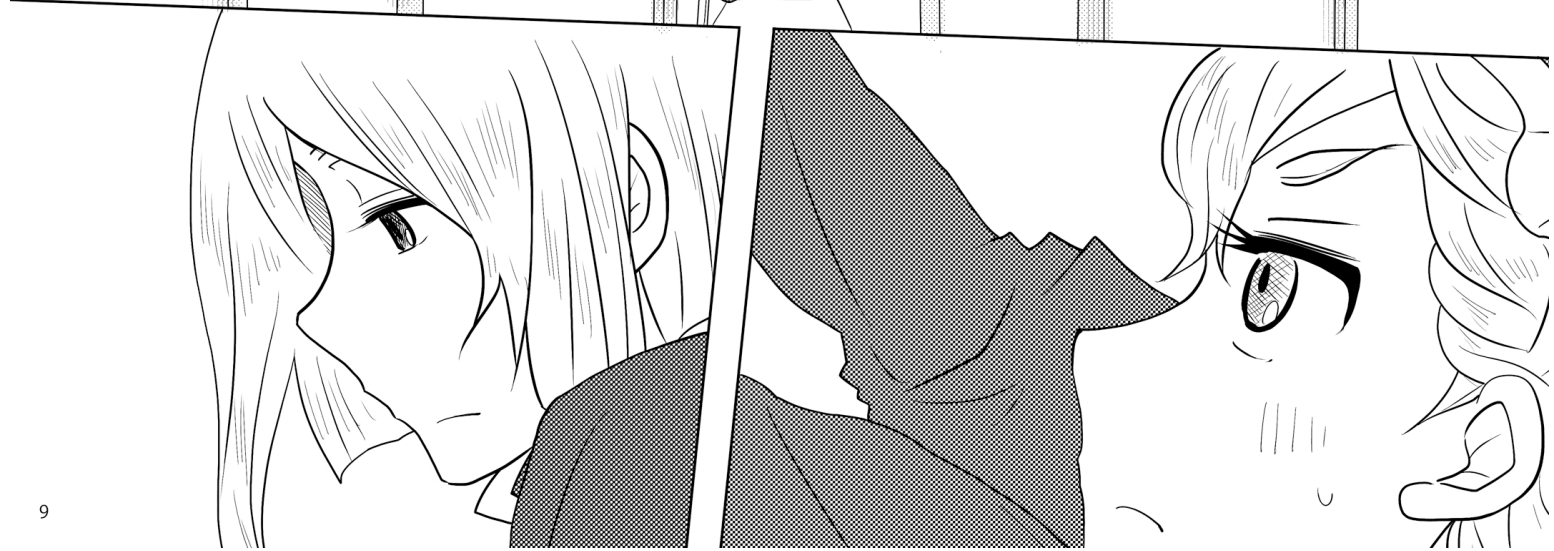
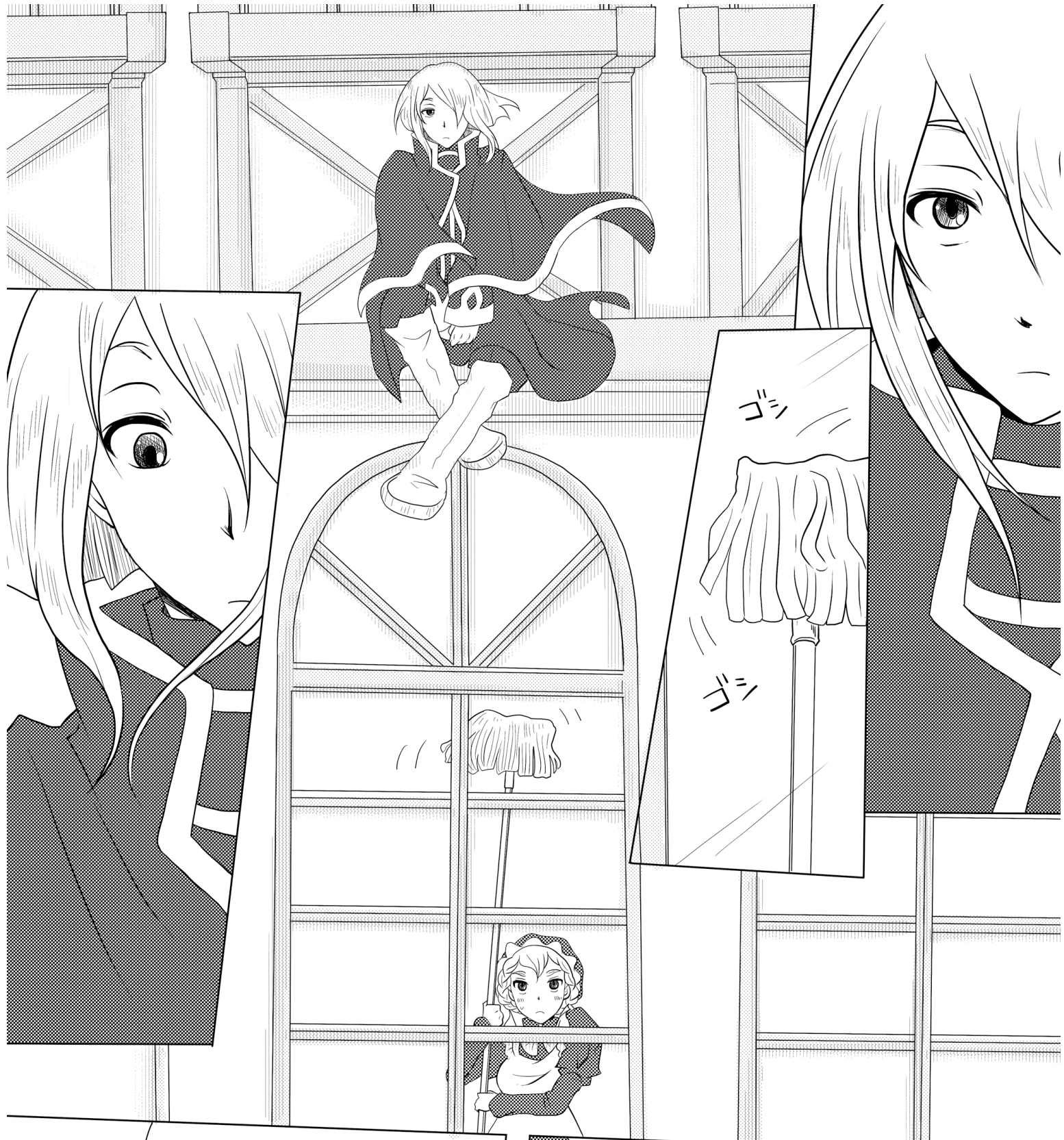
少し気分転換を  
してきなさい

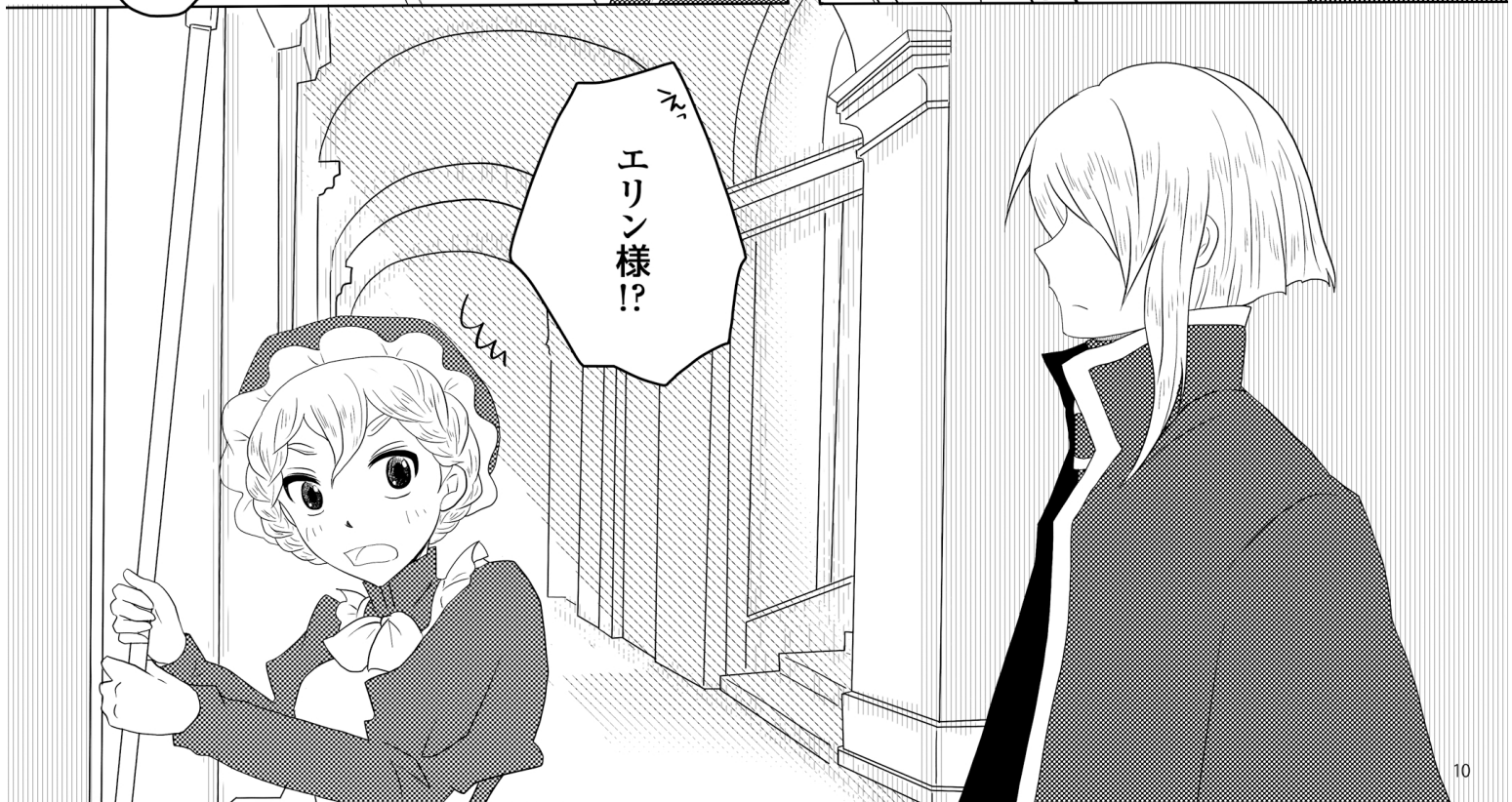
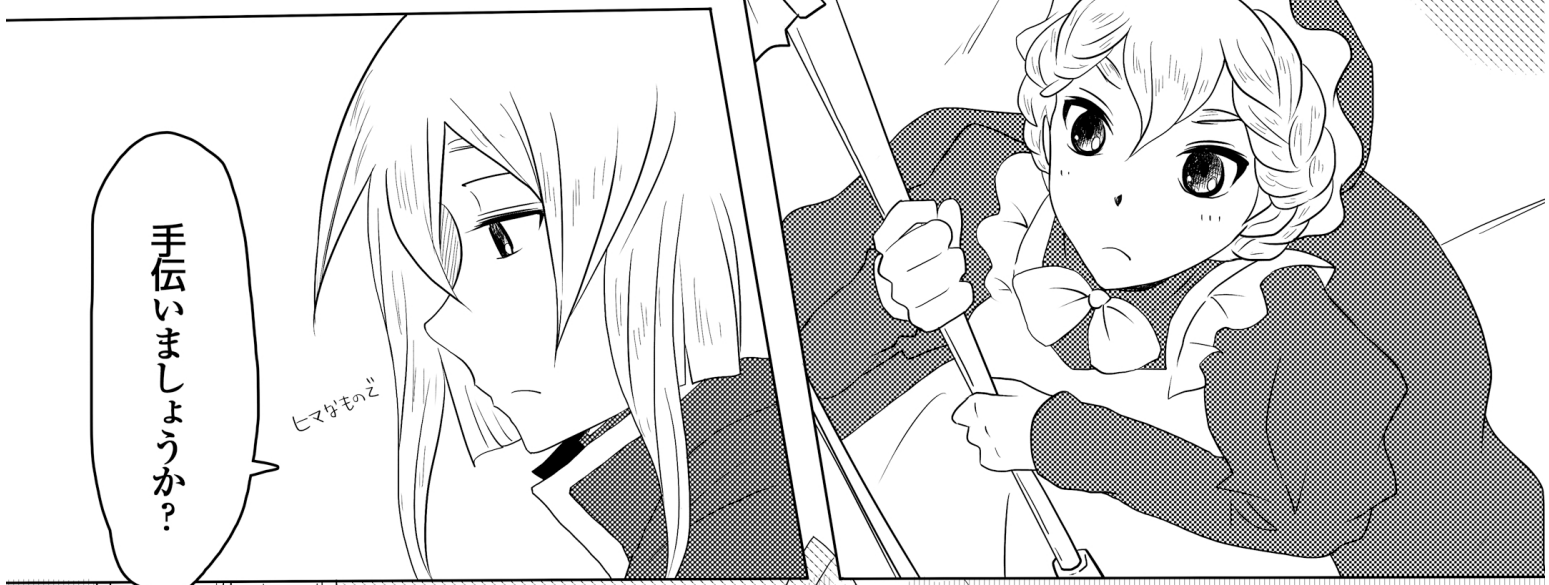
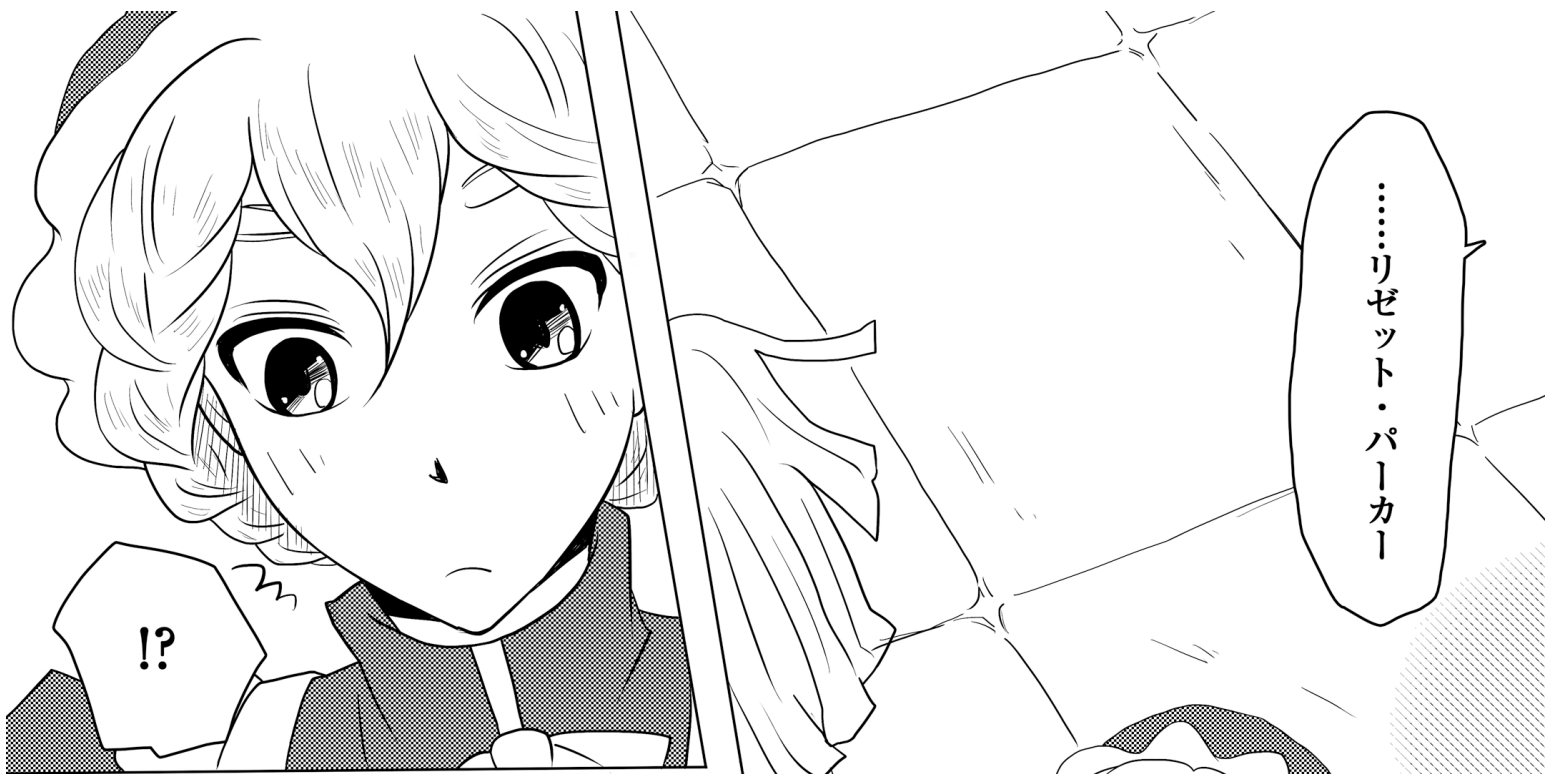
情けない  
顔をして



6  
6







# StudioF#

寝ていってなったら即落ちで

ぐっすり眠れます。

効率重視。

